

## 令和4年10月国見町教育委員会定例会 会議録

1. 招集日時 令和4年10月14日（月） 午後5時15分
2. 招集場所 観月台文化センター 第1会議室
3. 出席委員 1番委員 高橋 幸子（教育長職務代理者）  
2番委員 志村 裕美  
3番委員 中村 裕美  
4番委員 引地 亨  
5番委員 菊地 弘美（教育長）
4. 説明のため出席  
教育次長 東海林八重子  
学校教育課長 大勝 晴美  
幼児教育課長 佐藤 温史  
生涯学習課長 小野 笑子  
指導主事 高橋 正浩
5. 書記 主任主査兼学校教育係長 五十嵐佐和
6. 傍聴者 なし
7. 開 会 午後5時15分
8. 教育長あいさつ
9. 会議の成立 教育長が、教育委員半数以上の出席であり、会議が成立していることを宣言した。
10. 会議録署名人 会議録の署名人について3番委員 中村 裕美委員、4番委員 引地 亨委員を教育長が指名した。
11. 会期の決定 教育長が会期を諮り、本日1日とすることを決定した。
12. 会議録の承認 事務局より9月定例会会議録の概要について説明し、異議なく承認された。
13. 教育長報告  
(1)新型コロナウイルス感染症対策について  
別紙資料に基づき説明した。  
(2)教育長出席会議等について  
教育長の出席会議・行事等について、別紙資料のとおり報告した。
14. 協議・報告  
【報告事項】  
(1)国見町子ども・子育て支援推進協議会委員の人事について  
10月1日からの新たな人事及び設置要綱について、別紙のとおり説明した。  
(2)第2回くにみ学園基本構想策定委員会について  
10月4日（火）に開催された第2回くにみ学園基本構想策定委員会について、別紙資料に基づき説明した。  
(3)くにみ学園構想シンポジウムについて  
10月8日（土）にくにみ学園構想シンポジウムを開催したことを報告した。

#### (4)各課から

##### 1 学校教育課報告

① 通学路における合同点検について

9月22日(木)に行った通学路の危険箇所点検について、別紙のとおり報告した。

② 第2回スクールバス運行検討委員会について

9月28日(水)に開催した第2回スクールバス検討委員会について、別紙のとおり報告した。

##### 2 幼児教育課報告

① 令和5年度藤田保育所・くにみ幼稚園(預かり保育)・国見子どもクラブ児童募集について  
各施設の児童募集について、別紙のとおり報告した。

② くにみ幼稚園運動会

10月1日(土)に行われたくにみ幼稚園運動会について、別紙のとおり報告した。

③ 藤田保育所運動会

10月7日(金)に行われた藤田保育所運動会について、別紙のとおり報告した。

④ 自然保育を用いた子どものストレス軽減プロジェクト

ストレス軽減プロジェクトの第1回目実施内容について、別紙のとおり報告した。

##### 3 生涯学習課報告

① 地域学校協働本部事業について

「質問のできる学習室 in 柏葉体育館」、「就学時健診子育て学習講座」、「国見っ子わんぱく広場」について、別紙のとおり報告した。

② 公民館事業について

くにみ観月台カレッジについて、別紙のとおり報告した。

③ 図書事業について

「国見町図書館協議会先進地視察」、「移動図書」、「子ども司書講座・子ども司書活動」について、別紙のとおり報告した。

④ 青少年健全育成事業について

第6回奨励金交付式について、別紙のとおり報告した。

⑤ 社会体育事業について

「総合型地域スポーツクラブプレ事業&スポーツテスト」、「市町村対抗軟式野球大会」、「桑折町・国見町青少年健全育成剣道大会」、「市町村対抗ソフトボール大会」について、別紙のとおり報告した。

⑥ 今後の予定について

今後開催予定の事業日程について、別紙のとおり報告した。

#### 【協議事項】

『くにみ学園基本構想シンポジウムを終えて』について

教育長が、10月8日(土)に開催されたくにみ学園基本構想シンポジウムについて資料に基づき振り返り、各委員に感想や意見を求めた。

各委員からは次のような意見が出された。

中村委員：松田先生の Society5.0 は聞いていてとてもワクワクしたし、20××年の教育は早くスタートしてほしいと思った。AIが採点することで、その子の弱点が分かるし、先生の負担も減る。その分、その子の弱いところを中心に授業ができるのではないかと思う。民間の塾ですでに導入されているので、学校でもできるのではないか。

教育長：学校の教育は社会が求めているよりもずっと遅れていると言われているが、それはなかなか解決できていない。ゆとり教育など、それらを反省しながらこれからの学校の在り方に進んでいくのだと思う。

カリキュラムを個人に合わせていけるのはすばらしい。しかし実現するためには先生もスキルが求められる。だからこそ先生に余裕がないとできないと思う。

高橋委員：高橋先生に伺いたい。大学入試が変わってきているが、こうなると高校の勉強はどうなるのか。そして中学生はどこを目指して高校に入学すればいいのか。昔は大学入試の縛りがあったため、いい高校に入るといったのがあった。

高橋指導主事：まず高校入試は中身のスタイルがずっと変わらないために中学校は変わらない。公立は学習指導要領でカリキュラムが決まっていて、決められた期間でクリアさせないといけないことがびっしり詰まっている。

いま福島県の高校は改革をしていて、福高などは進学指導拠点校、橋などは進学指導重点校、工業や明成などは職業教育推進校などと分けて求める子どもを変えている。

来年以降、ベネッセでAIを使い、その子に合った問題を出してくれる仕組みを作っている。今までのベネッセの学力テストの結果のデータを基にAIでその子に合った問題が自動的に出題される。また個別最適化の学びであれば、極論だが、2クラスを得意な子、苦手な子で分けてしまう方法もあるが、これはいろいろな声があがってくる。

高橋委員：そうすると、くにみ学園基本構想の理念と方針に学力のことが一切入っていないが矛盾が出てくるのではないか。

教育長：学力は当然というところがある。数年前から問題になっているのは、入学した大学生の基礎学力が低い。入学前の3月に学び直しを大学が提供している。高校と大学の連携がうまくいっていないことが課題になっている。それを解決するためにAO入試が広がってきている。AO入試と一般入試で入学した子の差については、大学によって違いがあるが、東北大学ではAO入試の方が大学に入ってから伸びている統計が出ている。今はAO入試の割合が多くなっているので、高校入試も変えていかなければならない。県教委は変えていく方向では動いているが現実的にはまだ変わっていない状況である。大学の入試が変われば高校入試も変わるを得ないので、先を見れば変わっていくと思う。

高橋委員：AO入試で入った子は卒業も簡単になりそうである。ただ企業で育てるのは大変になる。小中での成功体験がある子は社会に出ても強い。社会に出ることを想定して育てた方がいいと思う。

引地委員：文科省が変わらないと何も変わらない。20××年の教育というのも20××年

の世界の中の日本が出発点で、それを描いてそこでどんな子ども達を育てるのがを考えるのが本来であるが、こういう風に育てたいと思っても文科省が変わらない限りそこで矛盾が出てくるのではないか。くにみ学園構想ではその矛盾をどうするのかとずっと思っている。

高橋委員：そう思う。先生方に縛りがある中でこのような構想の理想が出てきて先生がかわいそうに思う。理想を掲げるのはいいがその折れ合いが大事になると思う。

引地委員：この理想に賛同してくれる先生を探さないと国見に来てくれなくなる。

大勝課長：長野県の伊那小学校は通知表がなく、毎日が体験学習のような授業をやっている。公立の小学校で50、60年前から続いている。

私たちの課題は、くにみ学園構想の想いを先生方にどうやって実現してもらえるかである。おそらく始まりは大変でも軌道に乗ってしまえばそれに順応して進んでいくのだと思う。地域学校協働本部もスタートは先生方も否定的なところがあつたかもしれないが、今では当たり前になってきている。

高橋委員：伊那小学校は普通の授業も行っているのか。

教育長：低学年は午前中動物の世話などをしている。高学年は普通の授業を行っていると思う。

大勝課長：伊那小学校に通わせるために移住者も増えている。「今まで自己主張のなかった子どもが自分の意見を発するようになった」という保護者の意見もある。

引地委員：自分の意見をきちんと言えるのは素晴らしい。一般社会では自己主張が強すぎたり協調性がないのは問題だが、社会で成功する人は自分を持っている人なのでこのバランスが大事である。

高橋委員：勉強面が不安になるのではないか。

大勝課長：自然と自ら勉強するようになるのだと思う。

引地委員：大事なのはその子どもたちがその後豊かな人間になっているのか、そこに興味がある。

教育長：教育でとがっているものがあると移住者が増える可能性もある。先生の負担については、授業以外の所は専門の方にやってもらい、先生に余裕ができた時間で子ども達に向き合ってもらう方法もあると考えている。今新しい学校の議論をしているからこそ、まずはやってみないと何も変わらないと思っている。

大人の責任として何をしてあげられるか、勉強がしたい子、スポーツがしたい子など、選べる環境を作ることが大事であり、子ども達のチャンスにつながっていくと思う。学力とコンピテンシーの両立を図りながら国見型の教え方ができるといいと思っている。国見を愛する子ではなく、国見が好きな子を育てていければよい。

中村委員：日本の教育がそもそもダメだと思っているが、これからは得意分野を伸ばせる教育に変えていきたいと言っているが、結局高校入試はすべての点数を上げなければならない。得意なところを伸ばせる教育にはなっていない。塾に行かなければならないこともおかしいと思っているが、塾の先生のほうが進路について寄り添ってくれている。

高橋委員：中学校の一番の課題は高校受験であり、くにみ学園構想で理想を述べても無理だ

と思う。少数の委員や学校の先生だけで話し合うのではなく、地域の大人や親の世代が考えや意識を変えていかないといけないと思う。いろいろやるのはいいが、小中は勉強が大事なので勉強以外は地域の方に担ってもらえるとよい。コミュニティスクールはその役割があったと思うが負担に思っている先生も多いので、先生に負担をかけるのは気の毒に思う。

中村委員：非認知能力を小さいうちに自然に身に着けられる教育をして、小学校ではなぜ勉強が必要なのかを学び、中学校では高校受験をやらなければならない。なぜ勉強しなければいけないのかを分かっている子は成績がいいのかなと思う。

引地委員：なぜ勉強しなければならないのかを分かるのは大人になっていろいろ経験してからだと思う。

志村委員：国見の強みとして、同じ施設の中で幼稚園生が小学生を見て、小学生が中学生を見て生活をして、将来の線が見えてくるような縦割り班のカリキュラムを作っていければいいと思う。大きい目標は大事だが、確実にできるカリキュラムを組みこんで骨組みを作っていくといけない。最終的に中学受験があり、やるべきところで勉強をやるという体制は必要だと思う。

教育長：決して学力がいらぬというわけではない。みなさんのお話を聞いていて、子ども達に身に着けてほしいものとして、学力は必要であり、そこに自分たちで考える力も付けてあげないといけないと思う。

国見は保幼小中一校だからこそ縦の教育をやっていければ違ってくる。異学年、異年齢の学び合いはとても大事である。

今はこんな子に育てて欲しいからこんな機能が欲しいという議論が必要であり、それぞれの建物をただ一か所に集めればよいというわけではない。らせん状に配置されることで、自然にその関係性が作られる。やれないと思うことを除いてしまうと最終的には何もできない。少し冒険をしているのかもしれないが、理想を求めながら、これから具体的などころの肉付けをしていく作業をやっていく。今はそのスタート位置にいる。

もしかしたら大学入試が変わっていく中で、高校に対する考え方も変わってくる可能性もある。福島県は教育に関して固い県であるが、国見町として今やれることをやっていければいいし、それが地域の人がどう変わるかにもつながることになると思う。子ども達のことを考えてやろうとした時に、地域の大人はその周りにいなくてはならない存在である。そのつながりを持ってやっていくことは地域に絆ができることであり、そういった町は高齢者にも優しい町かもしれない。そこが今求められていることである。

CSはコーディネーターの方がやってくれる流れができていますので小学校の先生に喜ばれている。ただし協力してくれる人が固定化しているのでそこをもっと広げたい。

高橋委員：CSは授業や教科に関係ない分野を協力していただいているので中学校は関りが少ない。授業に関係するところについての、地域の考え方と先生の考え方の折り合いの付け方が大事ではないか。

教育長：今まで国見は家庭教育に踏み込めないうでいた。家庭教育をしっかりとやれば学校に  
対する保護者の考えも変わると思ふ。保護者もみんなで参画する学校になるとい  
い。

志村委員：小さい学校の時ハ保護者もとにかく参加しなければと思っていたが、下の子が国  
見小学校に入ってからハ人数が多いので行かなくても大丈夫かなという雰囲気  
あった。

中村委員：PTAもやる人が少なく困っている。集まりをズームにすれば良いのではない  
か。欠席届もデジタル化してほしい。

高橋委員：すべてデジタルになってしまうと先生と話す機会が無くなってしまうのでは  
ないか。

教育長：いろいろなお話が聞けたが、学校の先生も忙しいことが問題になっている。そこ  
を解決しないとくにみ学園の構想を掲げても実現しないことが出てくるので、大  
人側の責任としてきちんとやっていくことが必要である。

#### ○その他

- 11月教育委員会は11月10日（木）午前10時よりくにみ幼稚園で開催予定
- 令和4年度福島県市町村教育委員会連絡協議会県北ブロック研修会が10月18日（火）  
13時30分～ サンライズもとみやで開催予定
- 福島県市町村教育委員会連絡協議会伊達支会役員会が10月25日（火）13時30分～  
伊達市役所で開催予定

15. 閉 会 午後7時45分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

令和4年10月14日

議事録署名人

3番委員

4番委員

会議書記

主任主査兼学校教育係長

五十嵐 佐和